



三重中央だより

当院の理念(Principle) ●いのちの尊さを自覚し、病む人の身になって、安心で質の高い医療を行います。

テーマ

こんにちは赤ちゃん

総合周産期母子医療センター

巻頭言

三重県産婦人科医会
 会長 森川 文博



三重中央医療センターは、総合周産期母子センターとして、三重県において周産期緊急医療の三次病院として中核の存在であります。

NICUの盆野先生をはじめ、小児科及びスタッフの皆様においては、いつ何時でも相談にのっていただき、必要時すくすく号にて新生児搬送をしていただいています。本当に足を向けて寝られない思いです。

又、前田眞先生が私ども三重県産婦人科医会の理事として、赤ちゃんにやさしい医療推進事業を立ち上げ、早産予防のため子宮頸管長測定の統一化、臍内感染の予防を全会員に指導、呼びかけをしていただいています。これにより、私事ではありますが、自施設でも早産による母体搬送が著しく減少しております。ただ、周産期妊婦においては、重症合併症突発的事例の出現多く、三重中央医療センターの存在的価値は多大です。

三重県の南北に長く伸びた地域性により、北勢、中勢伊賀、南勢志摩、東紀州に地域分けされています。この内、北勢地域において三重県全体

の50%の分娩があります。

この北勢地域に於いては、元来NICU 9床、MFICUは6床と非常に少なく、母体新生児の受け入れ体制の強化を図る事が喫緊の課題でありました。

これに対し、大学と医会が強力に働きかけた事もあり、県立総合医療センターのNICU増床がなされ、市立四日市病院が総合周産期母子医療センターとなりました。これにより三重中央医療センターの負担がやや軽減されると思います。

しかしながら超早産及び極小未熟児は、三重県全域より三重中央医療センターへの搬送となっています。

このため、重症症例を取り扱う特定機能病院として、今以上にスムーズに受け入れていただくため、医療スタッフの増員、労働環境の更なる向上を各方面に働きかけてまいりたいと思います。

(小児科、産婦人科医師、看護師、助産師スタッフ及びパラメディカルの皆様に感謝を込めて)

周産期医療の現場から

総合周産期母子医療センター
前田 眞



常日頃、津市内をはじめ松阪、名張、伊賀市など近隣はもちろんのこと、南北を問わず県内各地の諸先生方から、たくさんの産婦人科症例をご紹介いただき、本当にありがとうございます。

なかでも周産期医療に限ると、最近では、FGR（胎児発育不全）や胎盤位置異常（前置胎盤）症例の早期紹介、多胎妊娠の膜性診断から共同管理の早期化、子宮頸管長測定による早産管理依頼の紹介などが明らかに増えてきています。おかげで、周産期分野での早期介入が少しずつ可能になってきました。しかし、周産期医療の目指す目標は多岐にわたり存在するため、強力な体制作りには人材育成も含め、さらなる時間を要します。ご理解下さい。

現時点で唯一、自信を持って報告出来ることは、県が掲げる目標のひとつ「三重県周産期医療現場での母体死亡ゼロ」だけは、当院も頑張っこの7年間連続して達成してきました。今回は、その検証を試みたいと思います。

当院への搬送入院症例は、年間150例を越えます。また、昨年一年間の総分娩数は586件、うち帝王切開術234件（帝切率40%）、さらにその半数の115件が緊急帝王切開術でした。そして、大量出血のリスクが高く、母体生命危機に陥りやすい疾患も増加しています。多胎妊娠は最近5年間で200例以上（年間40例の受け入れ）、前置胎盤も3年間で60例（年間20例）を越え、この2疾患（計年間60例）だけで上記の全帝切例の約25%、緊急帝切例の約半数を占めています。

次に、輸血という視点から周産期医療現場を見えます。全分娩数に対する輸血率について諸外国では1.0%から1.6%程度で、10年ほどで3割も上昇し

ています。では日本の状況はどうか？同種輸血率等を下記に表で紹介します。

同種輸血率（例数）は、全国が1.1%（9,122例）であるのに対し当院は4.8%（168例）、自己血貯血率（例数）も全国1.9%（15,840例）に対し当院は7.5%（264例）と高く、ともに全国平均の4倍以上でした。一方で、帝切時子宮からの突発的な大量出血をコントロール出来ず、やむを得ず子宮全摘術を行った頻度は、全国0.13%（1,141例）、当院0.17%（6例）と大きな差を認めませんが、母体死亡をみると、6年間で全国から116例（0.014%）が報告されたのに対し、当院では0例でした。

以上のことから、当院では致死的な輸血遅れも何とか回避し、早めの輸血準備と開始、自己血貯血の推進のおかげで、母体死亡を経験せずに乗り越えてこられたと考えております。まだまだ当院での緊急輸血体制は未熟ながらも、周産期スタッフから検査室職員の個人努力と尽力のおかげと感謝しております。なかでも一番の功労者は周術期管理をお願いしている麻酔科の先生方でしょう。本当に、長谷川隆先生始め皆さんには、昼夜関係なく献身的にご努力いただき、いつも感謝！の心でいっぱい頭が上がりません。さらに手術室看護師皆さんの、疲れを感じさせない俊敏な対応にも感謝しています。

また昨年後半から、院内助産（ローリスクバースセンター）も稼働し、東4階病棟の助産機能分担を推進しています。その結果、ハイリスク症例の受け入れがよりスムーズに出来るようになったかと思っておりますが、院外から見ていかがでしょうか。

最後に、今年度は①早産管理技術向上のためのMycoplasma & Ureaplasma検出と早期治療、②原因不明のFGR症例の検討と対応策（NHO共同研究）、③妊婦インフルエンザ調査（全国共同研究）などの新たな臨床研究テーマを掲げて取り組みます。「エビデンスに基づく医療（EBM）の実践は、自験例を検証して初めて起承転結し、完結する。」ことを常に念頭におき、それを忘れることなく、みんなで推進していくつもりです。

今以上の、さらなるご理解とご支援、よろしくお願い致します。

周産期医療現場での輸血、自己血貯血の状況について
—2007年～2012年の6年間調査結果—

	全国（284施設）	当院
総分娩数	850,897例	3,514例
同種輸血例数（率）	9,122例（1.1%）	168例（4.8%）
自己血貯血例数（率）	15,840例（1.9%）	264例（7.5%）
返血例数（率）	10,615例（1.2%）	111例（3.2%）
帝切時子宮全摘術	1,141例（0.13%）	6例（0.17%）
母体死亡例数（率）	116例（0.014%）	0例（0%）

Baby ER、Baby Ambulance、 成育フォローアップ

新生児科 医長

盆野元紀

新生児医療…誰もが通ってくる道にもかかわらず、人生で生まれた瞬間がもっとも生命リスクの高い時期だということをご存知でしょうか。世界中で毎年約400万人の新生児死亡があり、うち約20%が出生時の仮死によります。全出生児の10%は出生時に何らかの助けが必要で、1%の児は積極的な蘇生と適切な処置を受けなければ生存しがたいとされています。

今日、新生児医療の進歩は著しく新生児死亡率は1.0（出生1000対）にまで低下し世界一の水準を誇っています。当院は三重県から総合周産期母子医療センターに指定され、三重県の周産期・新生児医療の砦としてNICU（neonatal intensive care unit：新生児集中治療管理室）を中心に異常新生児の治療を担っています。NICUは急性期病床（狭義のNICU）12床と回復期病床（GCU：growing care unit）18床の合計30床より構成されており、年間250～270



名の入院があります。人工呼吸器17台、鼻式人工呼吸器4台、低体温管理装置1台、超音波診断装置3台など、多くの医療機器が備えられており、新生児の集中治療が可能になっています。

当院には三重県全域よりハイリスク妊婦が母体搬

送されてきますが、産科で管理されたのち出生した早産・低出生体重のお子さんでは厳重な管理・治療を要します。特に出生体重1500g未満のおさんは年間60～70名入院し、年間のべ3000日を超える長期の人工呼吸



管理を要します。慢性期に入って未熟児網膜症などの合併症に対し他科の先生方も含めた特殊な治療を要する場合があります。また、私たちは三重県新生児救急車「すくすく号」により新生児搬送を行ってきましたが、入院児の約2割は新生児搬送されたお子さんです。人工呼吸管理を要する重症呼吸器疾患や重症仮死の児が搬送され、最近では重症仮死に対し脳低体温療法を開始しています。

早産・低出生体重のお子さんがNICUを退院したあとすくすくと成長していくかどうかを見守り、サポートしていくことも当センターの役割です。そのためフォローアップ外来でお子さんの健やかな成育を確認する作業が周産期医療の質を評価するうえで最も重要なことであると思ひながら診療に当たっています。

今後とも皆様のご協力、ご支援のほどよろしくお願い申し上げます。



東4病棟 (産科・婦人科)



～新しい命の誕生に、安心と笑顔をお届けします～

<病棟紹介>

東4病棟はMFICU（母胎・胎児集中治療室）6床を有する三重県の総合周産期母子医療センターとしての機能と婦人科疾患治療の患者様の入院病棟です。

分娩数は年間約600例あり、NICUと連携をとって早産、多胎、母胎合併症などハイリスク分娩を取り扱っています。そのため、三重県全土より年間約100例程度の母体搬送を24時間体制で受け入れています。

<看護の特徴>

安心、安全な出産を目指し、赤ちゃんを迎えるご家族の幸せの第一歩を踏み出すためのお手伝いをさせていただきます。入院中だけでなく、外来から妊娠中～出産後まで、母親教室をはじめ、様々なサポートを提供しています。

MFICUではママと赤ちゃんができるだけ良い状態で出産を迎えられるように管理させていただいています。

また、女性のライフサイクルを意識し、患者様に安心して治療が受けられる環境の提供、支援をしています。

学習会風景

みんな真剣です！



医師も一緒にお産を振り返り、安全に介助ができるように日々精進しています(^o^)

ママと赤ちゃんの 安全を守ります

母体・胎児集中治療室
MFICU

母体・胎児集中治療室
MFICU

<安心してお産をしていただくために>

安全で、快適な妊娠ライフを過ごして頂けるように、母親学級、助産師によるプレママ外来を行っています。疑問に思うこと、不安なことなどをご相談ください。



プレママ外来

マタニティヨガ



<育児支援をしています>

BFH（赤ちゃんにやさしい病院）の認定を平成13年よりWHO/ユニセフより受け、母乳育児推進をしています。小さく産まれた赤ちゃんにとっても母乳は体に優しい栄養です。総合周産期母子医療センターだからこそ母乳育児に力を入れています。

電話訪問、おっぱい外来、育児サークルなど出産後も相談できる場も用意しています。育児でお困りのことがあれば、いつでもご相談下さい。



BFH の認定証

育児サークル

ママも息抜きが必要です(*^_^*)



<病棟紹介>

西4病棟は、総合周産期母子医療センターの新生児部門です。NICU (Neonatal Intensive Care Unit; 新生児特定集中治療室) 12床とGCU (Growing Care Unit; 新生児治療回復室) 18床から成り、三重県下最大規模を誇ります。予定日より早く生まれたあかちゃん、小さく生まれたあかちゃん、病気を持って生まれたあかちゃんが県内外から搬送されてきます。

西4病棟の看護職員は、看護師長1名、副看護師長2名、看

護師58名、業務技術員1名から成ります。副看護師長のうち1名は新生児集中ケア認定看護師の資格を持ち、新生児看護のスペシャリストとして活躍しています。また、男性看護師も2名配置され、父性看護の充実についても取り組んでいきたいと考えています。

入院から退院まで、受け持ち看護師を中心にあかちゃんご家族に寄り添い、あかちゃんにとっての最善を考えながらケアの

実践に努めております。退院後は受け持ち看護師が電話訪問を行い、24時間体制で電話・電子メールによる育児相談に対応しております。

西4病棟 (NICU)

小さな命へ大きな愛を、新しい命に優しい笑顔を!



新生児専用救急車 4代目すくすく号

新しくなりました!



NICU (Neonatal Intensive Care Unit ; 新生児特定集中治療室)

NICUは生まれたばかりのあかちゃんの救命や病気の治療に関する援助を中心に行っています。

あかちゃんは出産という劇的な変化により、子宮外で自らの力で生きていかなければなりません。その際には異常を起こしやすく、また子宮外生活への適応に支障をきたすことがあります。体温を調節する力や肺の働きなど多くの機能が未熟なため、集中治療・看護が必要とされます。そして高度な治療を受ける中でも、将来を見据え、成長発達を促すケアを行っています。また、入院によって離れ離れになったご家族の親子関係形成にも努めており、そのひとつとしてご家族とあ



かちゃんの肌と肌を触れ合う抱擁“カンガルーケア”を行っております。あかちゃんのご家族の心の安定化や、母乳哺育や相互関係を促す効果があると言われております。もちろんお父さんも経験できます。

当院は三重県で唯一ユニセフ・世界保健機構（WHO）の「赤ちゃんにやさしい病院（Baby Friendly Hospital；BFH）」に認定されております。母乳は成長に必要な栄養素のみならず、様々な病気やアレルギーからあかちゃんを守る免疫物質も含まれております。早産で小さく生まれたあかちゃんほど、母乳が必要です。母乳の大切さをお伝えし、お母さんの意向を確認しながら母乳育児支援を実践しております。

GCU（Growing Care Unit；新生児治療回復室）



GCUでは、主に急性期を脱したあかちゃんの安定期から回復期にかけての医療・看護を行っております。あかちゃんの健やかな成長を見守りながら、ご両親の育児行動獲得への支援を行っております。NICUに入院された早い時期から退院を見据えてあかちゃんを取り巻く環境に関する情報収集を行い、退院に向けた準備のお手伝いをさせていただいております。市町の保健師による家庭訪問依頼など地域との連携の充実にも努めております。

NICUフォローアップ外来

NICU卒業児のフォローアップ外来を小児科外来で行っております。西4病棟の医師と看護師が担当し、あかちゃんの健やかな成長を願い、見守っております。

あかちゃんをご家族を支える医療チーム

西4病棟では、医師と看護師、薬剤師、栄養士、リハビリスタッフ（理学療法士、言語療法士など）、臨床心理士、ケースワーカーなどたくさんのスタッフがチームを組んであかちゃんをご家族のサポートをさせていただいております。



薬剤師による服薬指導



理学療法士による機能訓練



栄養士による栄養指導

そして、小さなあかちゃんの命を守るため、スタッフ一人ひとりが研鑽を重ね、看護の質の維持に取り組んでいます。これからも更なる向上をめざし力を合わせて努力していきます。



看護部長 奥田 艶子

ご挨拶



副学校長 折山 久栄

平成26年4月1日付けでNHO鈴鹿病院から配置換えで赴任致しました。私は当院が開院した平成10年から14年まで看護師長として東7病棟（呼吸器・呼吸器外科）東5病棟（外科・泌尿器）で勤務していました。当時はオーダーリングシステムで画期的にスタートしましたが、平成24年3月から電子カルテになり、地域医療連携システムの構築がされているところです。病院機能評価も現在はV6とバージョンアップされ、チーム医療の推進をしています。医療も看護も質の向上が求められています。私が在籍していた頃は、認定看護師は0名でしたが、勤務者の努力と周りの職員の協力で現在は8名の認定看護師が専門性を発揮して活躍しています。平成26年3月の「三重中央だより」で8名の認定看護師の紹介が掲載されました。認定看護師とは一定期間の研修を受けて「日本看護協会の認定看護師認定審査に合格し、あるいは特定の看護分野において、熟練した看護技術と知識を有することを認めた者をいい、水準の高い看護実践を通して看護師に対する指導・相談活動を行う者」をいいます。認定看護師と看護師が協力して専門性の発揮できる環境を継続していきたいと思えます。

看護部の理念『患者さまの思いを尊び、安心で満足していただける看護をめざします。』に向けて看護部の目標を達成できるように取り組みます。

平成26年度看護部の目標

1. 各部署の看護の質を高め、患者サービスおよび医療安全に努める
2. 認め合い支え合うことにより、お互いが成長できる職場環境を築こう
3. 教育の充実をはかり人材育成に努める
4. 一人一人が自分にできることで病院運営に参画し、経営改善を実践する
5. QC活動・看護研究に取り組もう

今年度、新人（新卒）看護師は35名が就職致しました。急性期看護を希望した若い力を発揮できるようにしたいと思えます。新人共々よろしくお願ひ致します。

この度、金沢医療センター附属金沢看護学校より異動してまいりました。2年前鈴鹿病院で勤務させていただいており、再び三重県でお世話になることになりました。三重中央医療センターの看護学生には、実習施設として実習生をお迎えしたり、卒業生には就職していただき関わらせていただきましたが、これからは、逆の立場で看護師を目指す人々の支援に努力していきたいと思えます。

少子高齢化社会であると共に、医療や看護の現場の変化は激しく、看護師に求められる能力も向上しています。国立病院機構の組織も変化する様相を目前にし、課題は山積しています。高校生の減少、大学への進学増大、看護大学の増加等々は学生確保における課題です。社会情勢も変化し、入学者の背景も多様化し、教育の質も問われる状況にあります。これらの様々な動きの中で、昭和50年から附属の看護学校として開校し、歴史ある学校、全国に活躍する卒業生を輩出し続ける学校として、専門学校の有様を熟考していきたいと思えます。

附属の看護学校では、卒業生の多くが母体である三重中央医療センターや国立病院機構施設へ就職しています。学生の質を担保しさらに向上することが、病院の看護の質にもつながると考えます。微力ではありますが、より充実した看護基礎教育ができるよう頑張りたいと思えます。

看護は、人に寄り添い、命に向き合う職業です。専門職業人として自ら学ぶ、探求心を持ち、知性・感性のある看護師を育成したいと考えます。学生を育てるには、多くの支えが必要になります。母体病院の職員の方々を始め、県内にある国立病院機構の施設、地域の方々と多くの皆様のお力添えがなければできないと考えております。どうぞよろしくお願い致します。

この度、三重中央医療センターの初期研修医となりました^{かもん}掃部俊貴と西村正です。二人とも三重県出身で、今後の三重県の医療に少しでも貢献できればと思います。まだまだ未熟ですが、どうぞよろしくお願いいたします。



西村 正 さん

かもん
掃部俊貴 さん

新人スタッフ紹介



高橋亮太 さん

高橋亮太です。4月に三重中央医療センターに就職しました。はじめての三重、はじめての一人暮らし、はじめての社会人、なにもかもがはじめてで右も左もわかりませんができることをひとつずつ一生懸命がんばります。

4月1日より西3病棟に配属になりました。今は不安な気持ちも大きいですが、先輩看護師の皆さんに教えていただいたことを少しずつ理解し、多くのことを学んでいきたいと思います。

西3病棟 星野 怜奈



星野怜奈 さん

出産お祝い膳リニューアル!

当院では開院当初より、産婦人科病棟で出産された入院患者様にご出産のお祝いとお子様
様の健やかな成長を願い、心身ともにお疲れになった身体を少しでも早く回復して頂きたい
思いから「お祝い膳」を提供させて頂いていますが、今年
5月より献立内容をリニューアルいたしました。

内容は、①「母乳にやさしい内容」…蛋白質・鉄分・葉酸・カルシウム・食物繊維等の栄養素が豊富な食品を使用し、母乳の質や出を良くする。体調を整える。②「自宅でも作れる」…なるべく簡単に調理ができて、ご本人をはじめご家族の方にも食べて頂きたい。③「地のものを使用する」…鮮度が良い、地域のものを使用する安心感。この3点をコンセプトとして検討し、産婦人科病棟に入院された患者様方には美味しく食べて頂ける様、「お祝いする」気持ちを献立に表現いたしました。

そのほかに、食材の色合い・料理の盛り付け・使用食器の組み合わせにも力を入れ、メイン料理を和食・洋食の選択方式とし、料理の写真付きレシピを作成しました。

我々スタッフ一同、入院患者様に安心・安全・おいしい食事を召し上がって頂きたい思いの一心で取り組んでおります。「お祝い膳」を喫食して頂いた患者様をはじめ、病棟スタッフの方々のご意見等もお聞きしながら、より良いものを御提供させて頂きたいと考えております。



「クローバー友の会」 会 員 募 集

「クローバー友の会」規約ならびに申し込み用紙は、各ブロック受付、病棟などに備え付けてあります。規約をお読みいただき、賛同いただける方はぜひ会員登録をお願いいたします。賛同いただける方であれば、患者さんに限定せず、どなたでもご参加いただけます。登録と同時に会員証をお渡しいたします。なお、記入いただいた個人情報には本会の業務以外には使用せず、安全かつ適切に管理いたします。



会員にご登録いただきありがとうございます。
講演会に参加いただくごとに1スタンプ押印いたします。
(スタンプ数による特典は別紙公表いたします。特典は変わることがあります。)

1	2	3	4	5
6	7	8	9	10
11	12	13	14	15
16	17	18	19	20

■会員No. _____
住所 _____
氏名 _____
電話 _____

三重中央医療センター
地域医療連携室

輝くメディカルスタッフたち

医師、看護師以外でも、多くの専門性を持ったスタッフが当院院内で活動しています。その人と仕事にスポットを当てて紹介します。

診療情報管理士 藤本 美賀



みなさんはじめまして。この、かたくるしい名前の職種、診療情報管理士（しんりょうじょうほうかんりし）は、「診療情報」を「管理」するのですが、診療情報と聞いてもピンとこないかもしれません。でも、カルテと聞くと馴染みがあるかと思います。カルテは医療を行ううえで不可欠なものであり、診療情報管理士はそのカルテの管理の仕事をしています。以前から、病院を支える緑の下の力持ちと言われており、今の急性期病院ではなくてはならない存在です。当院では医事課の一員として勤務しています。

カルテの中には、患者さんの病名、検査の結果や薬の内容など、たくさんの事が記載されており、これらが診療情報となります。病院ではこの情報を共有しながら、患者さんへの医療提供を行っていきます。また、病院運営面の貴重な資料となり患者サービスの基盤となっています。

しかし、カルテに記載されているだけでは情報としての活用が出来ないので、情報の整理整頓をし「文字」を「情報」となるようデータ化していきます。診療情報管理士が行う重要な業務に、

コーディングというものがあります。世界保健機構（WHO）が定めたルールに従い、病名を分類するためのコードを付けていきます。このコーディングにより病名情報の収集が出来るようになります。「どんな病気が多いか」「この病気ではどんな治療を行っているか」等の分析ができ、さらには、他病院との比較も可能となります。

もうひとつ診療情報管理士の重要な業務に、カルテの記載のチェックがあります。カルテ記載に関連した講習会を行ったり、記載の不備が無いようにカルテの点検を日々行います。患者さんからお預かりした、手術・検査の同意書の日付や署名に漏れが無いかを点検し、同意書文書の改訂も行います。

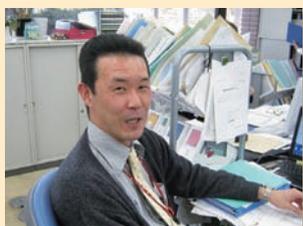
患者さんと接する機会の少ない職種ですが、私達診療情報管理士はカルテを通じて患者さんの健康を願い、安心して質の高い医療が提供出来るよう頑張っています。

シリーズ
医療用語の
基礎知識
3

病院職員が何気なく使用している用語で、普通にはあまり馴染みがない医療用語を分かりやすく解説します。

保険外併用療養費 (選定療養費)

保険外併用療養費（選定療養費）を初診の際にお支払いされたことはありませんか？ 保険外併用療養費とは法的に保険診療との同時請求が認められている自費の金額です。具体的には特別室料、先進医療等が挙げられます。その中に患者様が初診（紹介状なし）の際に支払われる「200床以上の病院について受けた初診」という項目があります。



医療施設はその規模や特質に応じて機能分担することが法により推進されています。「初期の診療は医院・診療所で、高度・専門的な医療は200床以上の病院で行う」という考え方です。紹介状がない場合は、この高度・専門的な医療サービスを、患者様が自ら選択して求められたという解釈になり、そのサービス料として保険外併用療養費が発生します。

ではなぜそのような制度があるのでしょうか。我が国は急速に少子高齢化が進んでおり、2030年には75歳以上の人口が5人に1人になると推計されています。私は65歳、高血圧症で入院し、1週間で自宅療養できるまでに回復しました。15年後を想像してみてください。私は80歳。1週間で回復できますか。入院中に他の病気は見つかりませんか。妻の高齢化や単独世帯化により自宅療養が難しくなってはいませんか。このままでは病院に入院（退院できない）患者様が増え続けて、重症の患者様を受け入れられないパンク状態になると予想されているため、今から各医療機関の役割分担を明確にし、この状態を回避する必要に迫られています。そこで患者様にもこの状態を理解していただき、医療施設の機能分担を推進する目的で、保険外併用療養費（選定療養費）制度が存在していると、「私は」思っています。病院に勤める者として、なんだか寂しい世の中です。

当院では一部の診療科を除き、紹介状なしでの初診は可能ですが、このような制度の下保険外併用療養を算定しておりますので、ご理解の程お願いいたします。

(医事 伊藤啓之)

第4回・第5回 「出前！ 市民公開講座」開催



第4回

藤水地区自治会連合会 米津北自治会

第4回は、3月20日に、藤水地区自治会連合会 米津北自治会のご依頼により米津北自治会館において「老いない工夫—物忘れが気になったら—」

というテーマで神経内科 北川長生医長による講演を行いました。老人部の30名の皆様を対象に「認知症と物忘れの違いは」から始まり、認知症を予防する食品、運動、生活習慣など真剣にメモをとったり、時には大きな声で笑ったりと和気あいあいとした雰囲気での60分でした。終了後には、多くの方がクローバー友の会に入会していただきました。

◎第4回 北川先生



第5回

イオン津南ショッピングセンターサンバレー

第5回の開催は、3月28日 イオン津南ショッピングセンターサンバレーにおいて「脳梗塞の予防と治療」というテーマで脳神経外科 種村浩先生の講演を行いました。

参加者は、過去最多の91名でした。脳梗塞に対する関心の高さがよくわかりました。質問も沢山頂き、誠実で温厚な先生らしくひとりひとりに丁寧に答えていました。アンケートに「タバコをやめるぞ！！意思を持った。今日話を聞いて」との答えがありました。ここでも、多くの方がクローバー友の会に入会していただき、すでにスタンプが2個目の方もお見えになりました。

◎第5回 種村先生



ナイチンゲールフェア in サンバレー

5月17日(土)
12:00~16:00

たくさんの方の
ご来場をお待ち
しております。

イオン津南 ショッピングセンター

白衣を着てお写真を取っていただけます。記念にいかがですか？
健康チェックができます。
正しい手洗い、体位変換のコツが分かります。
肩こり・腰痛体操も実施。
力自慢の握力コンテストに参加しませんか？

出前！市民公開講座



「脱腸をそのままにいませんか？ ~そけいヘルニアについて~」

外科
草深 智樹 医師

「胆石症と言われたことはありませんか？ ~胆石症の治療を中心に~」

外科
武内 泰司郎 医師

「知ってますか？ 膀胱が増えていること
~早期発見から治療：最近の話題~」

外科
信岡 祐 医師

感謝をこめて 感謝状贈呈式

三重中央だより3月号でお知らせ致しました転倒防止の川柳「転ばぬ先の知恵賞」に輝いた10名の皆様と三重中央医療センター友の会「クローバー友の会」の命名者の方に感謝状と副賞の授与が行われました。どちらも多くの応募を頂き、職員一同感謝しております。ありがとうございました。



「クローバー友の会」命名



川柳「転ばぬ先の知恵賞」

編集 後記

新芽、新緑の季節となり、野山や田畑が次々と若葉色に染まり始めました。三重中央だより5月号も「こんにちは赤ちゃん／総合周産期母子医療センター」と新しい命をテーマにご紹介させていただきました。地域医療連携推進メンバーも4月の人事異動で7人中3名が異動になり、新しい風が吹き出しました。書いてる本人はもういませんが…。今後も、地域の皆様の健康に役立つ新しい話題を提供していきますのでよろしくお願いたします。(小)

発行所

三重中央医療センター
院長 森本 保

三重県津市久居明神町2158番地5
TEL. 059-259-1211
<http://www.hosp.go.jp/~nmch>

●●● 三重中央医療センター—連携医療機関紹介 ●●●●●

中 浜 胃 腸 科 外 科



当院は平成5年1月に旧久居市元町に開業いたしました。院長は中浜貴行と申します。三重大学第一外科の出身で旧国立津病院外科に2年間勤務しておりました。家内も津病院で看護師として十数年勤務しており今の三重中央医療センターの古株の職員さんには結構有名な夫婦で通っております。診療内容は胃腸科（消化器内科）をはじめとして内科一般、外科、肛門外科、リハビリテーションです。内視鏡の件数も少々減ったとはいえ年間200例前後（初期のころは400例ほど）は行っています。小手術もしておりますが特に痔核の硬化療法や輪ゴム結紮術を積極的に行っています。一般診療は軽微な高血圧や糖尿病、脂質異常症などは初診から治療しますが、高度な専門医療機関で治療を要する症例は精査初期治療などをお願いして当院でフォローできる方は逆紹介にて対応させて頂いています。また開業当初より在宅医療にも積極的に関与しており平成18年より在宅療養支援診療所となっております。

います。主に個別の在宅患者さんの訪問診療を行っていますが、近年は、施設（グループホームや特定施設など）への訪問診療も行っています。緊急時には家内を伴って往診も行い文字通り24時間対応を実践し看取りも行っています。近年介護保険の創設以来自宅のみならず施設での訪問診療や救急対応あるいは看取りなど終末医療の需要が増加しつつあります。しかし、新設の施設では急変時や死亡時の対応に慣れていない職員が多く特に看取りには消極的な場合が多いようです。今後は各施設での職員研修だけでなく広く看取りや急変時の対応について啓蒙する機会を増やしていただければと感じております。

地域的に専門領域だけの診療では患者さんが満足して頂けないことも多い中、三重中央医療センターをはじめ近隣の病院の皆さまには大変お世話になっています。特に、三重中央の脳卒中ホットライン、循環器ホットラインは私自身も含めて地域の先生方も大変有効で心強く思っております。今後は消化器疾患のホットラインも創設頂ければ幸いです。救急は医師にも他の職員さんにも負担の多い部門ですが、ここ津地区で大学と三重中央医療センターのこういったホットラインの機能があればもう急患を敬遠する必要もなくなり益々当地区の医療の充実と三重中央医療センターさんの発展に大きく寄与するものと信じております。OBの一人としてご期待申し上げます。

院 長：中浜 貴行
住 所：〒514-1125 津市久居元町1870-7
電 話：059-256-6856 FAX：059-256-8990
診療科目：内科、消化器内科、外科、肛門外科、
リハビリテーション科
休 診 日：日曜日、祝日、木、土曜日の午後
診療時間：9時～12時、15時～18時30分

ほ ら や ま 内 科



当院は、昭和62年10月、旧久居市（二ノ町通り）で開院しました。内科、循環器内科、消化器内科、呼吸器内科を標榜しています。当初から、地域医療が大切と考え、高血圧症、脂質異常症、糖尿病などの生活習慣病から、消化器疾患、呼吸器疾患、感冒など及び、在宅医療まで、かかりつけ医として幅広く取り組んできました。

複雑な検査、治療が必要なときは、連携医療機関で

ある三重中央医療センターに紹介させていただき、対応させていただいています。そのため、三重中央医療センターの先生方には大変お世話になっていて、適切な指導をいつもいただいています。

これから、高齢化社会を迎えるにあたり、在宅医療など、かかりつけ医としての役割も増えてくると考えられます。今後も、三重中央医療センターとの連携を深め、地域医療に努めたいと思っています。

院 長：洞山 典久
診療科目：内科 循環器内科 消化器内科 呼吸器内科
所在地：〒514-1125 津市久居元町2327-5
電 話：059-256-7070 FAX：059-256-7091
休 診 日：日曜 祝日 水曜午後

診療時間	月	火	水	木	金	土	日
9：00～12：00	○	○	○	○	○	○	×
15：00～16：30	○	○	×	○	○	○	×



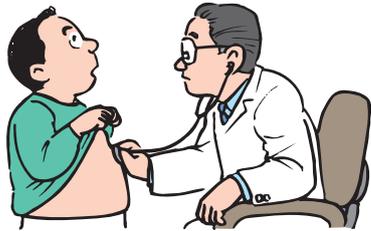
まきのクリニック



平成13年5月7日地元の方々の尽力のおかげで開業。13年目を迎えることができました。場所は榊原温泉の近く、風力発電のプロペラが林立する笠取山（青山高原）の麓、旧美里村の入り口です。診療は一般内科。疾患に応じて三重中央医療センターの各科を紹介させていただき地域の方々が安

心して暮らせる一助になればと毎日クリニックを続けております。お猿さんやイノシシや鹿が今でも近所に出没しておりますが、近日、コンビニや薬局が近所にできたおかげでずいぶん便利になりました。山の中に位置しておりますが、医療レベルは落とさないように日々の診療をおこなっております。

今後ともよろしくお願ひします。



丸岡 医 院



昭和23年に父親が地元である当地に丸岡医院を開院し、それから地域医療に一貫して当たってきました。開院から数えると約65年になっています。

昭和59年から後を引き継ぎ、大学で研修した循環器疾患を中心にして地域医療にあたってきました。消化器は三重大学病院から応援をしていただき、胃内視鏡などの検査や処置を行っています。引き継いだころに比べても、生活習慣病は多くなり、高血圧、脳血管障害、心疾患、高脂血症、糖尿病など慢性疾患の継続した管理を行いながら、医療機器もレントゲン、CT、胃内視鏡と洗浄機、エコーがあり、

処置の必要な疾患を早期発見して連携のとれる専門機関で対応できるように心がけています。

引き継いでからほぼ30年になります。引き継いだ当初に比べて地域の高齢化も進行しています。特に郊外の地域は人口も減少傾向にあるため、公共交通機関が弱体になり、通院に困難な患者さんが多くなり、往診の距離も片道10km超えるなど長くなり時間がかかるようになっていますが、色々な薬局や訪問看護の協力も得ながら在宅医療に力を入れています。親子三代にわたって通院してみえる患者さんも多く、色々な相談も増えており、在宅、家庭医と言っていいと思いますが、その必要性はますます多くなっているように感じています。

院 長	丸岡 隆芳
住 所	514-0075 津市片田志袋町483
電 話	059-237-0013 FAX: 059-237-2357
診療科目	内科、循環器科、消化器科
休 診 日	日曜日、祝日・祭日 木、土午後

	日	月	火	水	木	金	土
午前 9 : 00 ~ 12 : 00	×	○	○	○	○	○	○
午後 15 : 00 ~ 18 : 00	×	○	○	○	×	○	×



外来診療担当表

平成26年4月1日現在

診療科名等		月	火	水	木	金	
初診内科 (初診・予約外) <small>*初診及び紹介患者様は、総合内科で診察いたします。</small>	1診	井端【呼】	大本【呼】	北村【循】	田中(剛)【糖】	川崎【循】	
	2診	竹内【消】	中久木【循】	藤本【呼】	田中(淳)【循】	後藤【糖】	
	3診	新谷(卓)【循】	子日【消】	十時【消】	渡邊【消】	亀井【消】	
	4診	中谷【循】	奥田【糖】	田口【消】	岡野【呼】	西井【呼】	
再診内科 (予約のみ)	呼吸器科	4診			井端(午後再診)		
	循環器科	5診	田中(淳)	川崎	新谷(宇)	中久木	
	呼吸器科	6診	藤本	井端	井端	大本	
	消化器科	7診	子日	亀井	渡邊	十時	
	内科	8診	中久木【循】	新谷(卓)【循】	後藤【糖】	田口【消】	中谷【循】
		9診	後藤【糖】	田中(剛)【糖】	田中(剛)【糖】	田中(崇)【糖】	田中(剛)【糖】
10診		加藤【消】	西井【呼】	奥田【糖】	岡野【呼】		
神経内科		1診	北川	梶川(予約)	北川	梶川	
	2診	吉丸	北川(予約)	梶川	北川	吉丸	
小児科	午前	1診	井戸		井戸	田中	
		2診	NICUフォロー(盆野)	NICUフォロー(盆野)	発達外来	NICUフォロー	
		3診		田中	山本(初)(予約)	井戸	
		4診	発達外来			発達外来	
	午後	1診	田中(予約)	乳児健診		NICUフォロー	予防接種
		2診	NICUフォロー	2週間・1カ月健診	発達外来	NICUフォロー	
3診	NICUフォロー		山本(初)(予約)		(NICUフォロー)		
外科		1診	横井	谷川	横井	信岡	
	2診	草深		武内			
整形外科 (予約・紹介のみ)		1診	田中(雅)		田中(雅)		
	2診	長倉	浅沼(休診中)	小寺	浅沼(休診中)	長倉	
	3診	新谷(健)		新谷(健)		小寺	
脳神経外科		1診	霜坂	石田	霜坂	種村	
	2診		種村(初診)		芝	霜坂(予約)	
脊椎・脊髄外科 <small>*診療時間は10:00～14:00までとなります。</small>				*水野			
呼吸器外科			安達		樽川	安達	
心臓血管外科		森本		佐藤	ペースメーカーチェック	日置	
皮膚科(*予約・紹介のみ)		中西		中西	中西	中西	
泌尿器科 <small>*水曜日の初診及び再来初診の受付時間は8:30～10:00までとなります。</small>		1診		加藤	*加藤(初診)	加藤	
	2診		岩本(初診)	岩本	岩本(初診)	岩本	
産科・婦人科	午前	1診	前田(真)	前川	前田(真)	澤木	
		2診	澤木	日下	吉村	吉村	
		3診	前田(佳)		道端	前田(佳)	
	午後		プレママ外来		プレママ外来	プレママ外来	
	おっぱい外来(予約)	おっぱい外来(予約)		おっぱい外来(予約)			
眼科(予約・紹介のみ) <small>*水曜日の受付時間は8:30～10:30までとなります。</small>		久瀬		*久瀬	久瀬	久瀬	
耳鼻咽喉科	午前(初診)			*伊藤	*伊藤		
	午前(予約のみ)		伊藤			伊藤	
	午後(予約のみ)	伊藤	中耳外来		中耳外来		
放射線科(7ブロック)		奥田	奥田	奥田	奥田	奥田	
リハビリテーション科		小寺	田中(雅)	長倉	長倉	新谷(健)	
歯科・歯科口腔外科		柳瀬	柳瀬	*柳瀬	柳瀬	柳瀬(予約)	
看護外来(予約)		がん看護 (第1月曜日 透析予防外来)	がん看護 (第3火曜日 透析予防外来)	糖尿病外来	ストーマ外来	フットケア外来	

*初診及び予約のない再診の方の受付時間は8:30～11:00までです。 *医師の人事異動・出張等により臨時に代診(休診)となる場合があります。
*当院のような急性期病院は、病棟入院患者様の処置、手術、検査、回診等があり、外来診療に制限を設けなければならない診療科もあることを御理解ください。

不整脈専門外来	肝炎外来	いびき・無呼吸検査	タバコ障害・COPD精査	ものわずれ外来	乳児健診	予防接種	NICUフォロー
月・火曜日 午前診療	水曜日 午前診療	月・火曜日 午前診療	月・火・水・木・金 午前診療	月・金曜日	火曜日 午後診療	金曜日 午後診療	月・火・木曜日 午前診療
循環器科(新谷)	消化器科(竹内)	呼吸器科	呼吸器科	神経内科(吉丸)	小児科		小児科(盆野)
リウマチ外来	未破裂脳動脈瘤 専門外来	脊椎・脊髄外科専門	肺癌・良性肺腫瘍・ 気胸・縦隔腫瘍・膿胸	中耳外来 (予約)	プレママ外来	おっぱい外来 (予約)	発達外来
月・金曜日 (要予約・紹介)	金曜日 午後診療(要予約)	火曜日(10時～14時) (要予約・紹介)	火・木・金 午前診療	火・木曜日 午後診療	火・木・金曜日 午前診療	月・火・木曜日 午後診療	月・水・木曜日 診療
整形外科(小川)	脳神経外科(石田)	脊椎・脊髄外科(水野)	呼吸器外科	耳鼻咽喉科(伊藤)	産科・婦人科		小児科(山川)